

アグリテック起業は若者の雇用創出解決策となりうるか？

氏 名: 方 瞳

修学機関: 東京大学 大学院新領域創成科学研究科
国際協力専攻 博士後期課程

研究課題: アグリテックスタートアップ企業の雇用創出 可能性の検証

Understanding job generation capacity of agritech startups for inclusive economic development in Kenya

略 歴 (ほう ひとみ)

京都大学経済学部卒業後、日本工営株式会社勤務を経て、アジア経済研究所開発スクール卒、米国タフツ大学フレッチャースクール修士号取得。卒業後に世界銀行ワシントン DC 本部でナイジェリアの世帯調査(LSMS)分析および貧困レポートの執筆業務に従事。その後、米国イリノイ大学アーバナシャンペーン校のリサーチスペシャリストとして米国国際開発庁(USAID)や英国国際開発省(DFID)の、マラウィとシエラレオネにおける農業技術普及や高等教育カリキュラム強化プロジェクトの実施評価業務に従事する。

2019 年に国際連合食糧農業機関(FAO)のイタリア・ローマ本部にてジュニア・プロフェッショナル・オフィサー(JPO)として勤務を開始し、若者の起業創出支援を実施。2023 年からは同機関で若者雇用スペシャリストとして、米国より遠隔で勤務中。直近では FAO の若者に関するグローバルレポート、「Status of Youth in Agrifood Systems」(仮題、2025 年 7 月出版予定)の執筆に従事。

- 農業分野でデジタル技術や人工知能(AI)を活用する「アグリテック」の起業が近年増えている。
- 筆者の博士課程の研究では、ケニアを対象にアグリテックスタートアップ起業が雇用を創出する能力について質的量的側面から調査・分析する。

博士課程を志した背景と進学先の選定

私はこれまで世界銀行やイリノイ大学、FAO にて、プロジェクトの実施と研究業務に従事してきました。周りの同僚は博士持ちも多く、業務を遂行する中で自分の研究スキルを磨く必要性を長年感じていました。また、FAO や世界銀行では自分の周りの上司はほぼ皆博士持ちであったため、長期的にキャリアを構築していく上でも博士号は必要であると認識していまし

た。しかし、博士課程を走り抜けるほどの情熱を捧げられるテーマを見つけしていなかったこと、および、自分の専門分野である起業、雇用、農業を専門とする指導教員に巡り合うことがなかったためこれまで進学せずにきました。今回幸いその両方を見つけることができ、かつ FASID 奨学金プログラムにご支援いただけることも決まり、進学することを決めました。また、子供たちが大きくなってきて、少し手が離れてきたタイミングが重なったことも大きかったように思います。

進学先の選定基準としては、第一に指導教員とのマッチングを重視しました。第二に、私は FAO での就業と並行して博士課程に進学をしたかったため、指導教員の所属機関が社会人を積極的に受け入れる体制であったこと、具体的には社会人経験に基づく単位認定制度があることが魅力的でした。最後に、私は現在家族と共に米国の地方都市に在住のため、遠隔で博士課程に進学する必要がありました。指導教員がそれを理解し受け入れてくれることが決め手となりました。

博士での研究内容

開発途上国では、農業は多くの雇用を創出する分野として重要な役割を果たしています。国が発展していく過程で経済活動がサービス業や製造業に移り変わる中、途上国ではそれらの産業に移行していくプロセスが順調に行われる国ばかりではないため、農業が依然として雇用面で果たす役割は大きく、アフリカでは農業が 48% の雇用を担っている状況です。また、アフリカでは人口が増加し続けており毎年約 1,000 万の若者が労働市場に参入するのに対し、フォーマルセクターの仕事は 300 万件しかなく、圧倒的に雇用機会が不足している状況です。しかし現代の若者の多くは、低賃金、重労働のイメージが強い農業に従事することを嫌がり、農業離れが世界中で起きています。この傾向はアフリカも例外ではありません。

現代の農業技術は進化を続けており、デジタル技術や人工知能(AI)を活かした効率化が進むと同時に、より環境への負荷が少ない技術も数多く開発されています。例えばドローンやセンサーで収集した画像やデータを AI で解析し、病害虫の発生を早期に発見したり、データを元に適切なタイミングで適切な量の農薬を散布することで農薬使用量を削減したり環境負荷が軽減できます。このような分野は「アグリテック」と呼ばれ、スタートアップの設立が盛んになってきています。若者にとってデジタル技術や AI は魅力的な分野として認識されているため、アグリテックスタートアップは若者に対し、起業家もしくは被雇用者としての雇用の機会を創出する潜在的な可能性を秘めていると言えるでしょう。

私の研究ではアグリテック分野のスタートアップ企業が雇用を創出する能力について質的量的側面から調査したいと考えています。アフリカのアグリテックへの投資はケニアを含む数力国が先行している状況にあります。したがってケニアを対象として、国内のすべてのアグリテックスタートアップ企業を対象とした企業調査を行います。具体的には、CEO もしくは人事管

理者を対象とした構造化調査と深層インタビューを通して、過去から現在の雇用データを収集し、アグリテックスタートアップの雇用者数の推移を量的に調査します。質的側面からは、アグリテックスタートアップに雇用された人たちがどのような特性を持つのかを年齢、性別、教育レベルなどの面から分析します。また、スタートアップ企業の特徴(設立年数、外部資金の調達状況など)と、前述の質的量的データの関係についても調査したいと考えています。

他方で、デジタル技術やAIの活用は作業の効率化や自動化を可能にする、すなわち労働集約性を下げることから、デジタル技術やAIの活用を通して失われる雇用機会も同時に分析する必要があります。私の研究ではアグリテックスタートアップ企業のサービスを活用するクライアントへの調査を通して失われた雇用機会に関するデータも収集し、雇用の創出と喪失を比較分析する予定です。

この研究を通し、アグリテックを取り巻く雇用状況に関する新たなエビデンスを生み出し、エビデンスに基づく政策策定に活かすことを目指しています。最後に、就業と並行した博士課程での研究をご支援くださる FASID 奨学金プログラムに多大なる感謝を申し上げます。いただいた機会を活かし、長期的に国際協力の実務と研究の両面で活躍できる人材になれるよう今後も努力していく所存です。



東京大学大学院新領域創成科学研究科がある柏キャンパス。
緑が多く広々としたキャンパスです。